

第20回2004年度総会 輝かしい未来へ照準を合わせて 新生KVBC丸、出帆！

第20回2004年度総会

輝かしい未来へ照準を合わせて 新生KVBC丸、出帆！

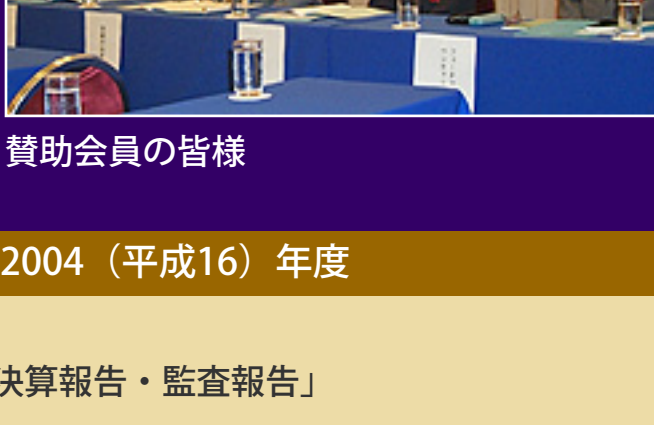


平成16年度役員一同

去る6月16日（水）、KVBC第20回総会が京都全日空ホテルで開催されました。企画広報幹事の土井達也氏司会のもと、藤岡清代表幹事から「チャレンジ精神とさまざまな人との交流を持つKVBCの活動の中で、これからの21世紀に大きく貢献していきましょう」と挨拶がありました。続いて、2003年度の事業報告と決算・監査報告、そして2004年度の事業計画案などが審議され、全員一致で承認されました。



平成16年度役員一同



賛助会員の皆様

KVBC第20回総会次第 2004（平成16）年度

◆第1部 14:00～

第1号議案 「2003年度事業報告・収支決算報告・監査報告」

第2号議案 「役員改選」

第3号議案 「2004年度事業計画案・収支予算案」

◆第2部 15:30～

演題 「IT教育のバイオニアとして」

講師 学校法人京都情報学園・学校法人京都コンピュータ学園

長谷川 靖子 理事長

長谷川 亘 総括理事

◆第3部 17:00～

懇親会

アトラクション 「難問・奇問 京都クイズ」（景品あり）

第1部

●第1号議案

2003（平成15）年度事業報告
平成15年4月1日～平成16年3月31日

1 事業概要

2003年度は、2002年度に引き続き、ベンチャービジネスの原点に戻り、現状を拓く拡大企画セミナーを中心に、会員相互の情報交換や勉強会、会員外の企業経営者等へのKVBCの活動を広くPRすることに取り組んだ。

（1）全体会

全体会として、下記の事業に取り組んだ。

総会：会員相互の交流、情報交換の場として開催。第2部では、成安造形芸術大学の桑原名誉教授を迎え、「バレーボールとベンチャー精神」をテーマに講演会を行った。

●経営セミナーおよび納涼会：佐藤研司龍谷大学教授を迎えてのセミナー、納涼会を開催

●経営セミナーおよび忘年会：元KBS京都のアナウンサー山口進氏を迎えてのセミナー、忘年会を開催

●拡大企画セミナー：会員企業がパネラーとなって、下記のテーマで4回開催

(1)我が社の特許戦略と事業展開

(2)伝統をベースにした新展開

(3)資金計画のヒント

(4)物販業のベンチャー的視点

●例会：スポーツライター玉木正之氏を迎えて「スポーツにおけるベンチャービジネス」のテーマでのセミナー開催

●技術セミナー：元オムロン株式会社の田中寿雄氏を迎えてのセミナーを開催

（2）プロジェクト事業

会員の事業参加の促進とKVBC活性化のため、興味あるテーマをまとまりやすい少人数で研究することで、そのテーマを十分掘り下げることを目的として取り組んだ。

[1] 人材ネットワークプロジェクト

人材ネットワークプロジェクトでは、人材に対する「確保・教育・定着・活用」という広範なテーマで、年間を通して研究、実践していく事を目指して事業に取り組んだ。

16年3月25、26日には会員企業11社参加のもと、キャンパスプラザ京都において「KVBC就職フェア」を開催し、207名の参加を得た。

[2] ものづくり研究会

大企業にない特性を生かした「ものづくり」を考えることを基本理念に共同でのアイデア商品の開発、ベンチャー的のものづくりについての研究、会員相互の理解と情報交換を進め、楽しく面白い会として、研究例会や見学会、1泊研修会など計15回の研究例会を開催した。

[3] グローバル問題研究会

情報が氾濫する時代において、真実の情報を希求し、見識を深めるため、毎月の月例会報の発信をはじめ情報交換を行った。

（3）研修・会員交流事業

以下の研修事業を行った。

[1] 経営セミナー&納涼会

龍谷大学の佐藤研司教授を講師に迎え「ベンチャー企業のマーケティング～如何につくり、如何に売るか～」のテーマでのセミナーを納涼会を兼ね実施した。

[2] 経営セミナー&忘年会

元KBS京都アナウンサー山口進氏を迎え「アナウンサーとして学んだこと」のテーマでのセミナーを忘年会を兼ねて実施した。

[3] 第17回京都ベンチャーセミナー（KVBC技術セミナー）

2003年度は、元オムロン株式会社での研究者で世界初の自動改札機を開発され、NHKテレビ「プロジェクトX～挑戦者たち～」に出演された田中寿雄氏を迎え「ものづくりの魂」と題した講演会をキャンパスプラザ京都にて開催した。

[4] 京都大学桂キャンパス視察

2003年10月にオープンした京都大学の桂キャンパスの視察を行った。視察と並行して、京都大学の松重和美副学長、小寺秀俊教授、京都ナノテククラスターの今田哲先生および、京都市産業振興課の藤原担当課長を講師に迎えての講演会を実施し、その後、研究者と会員の交流会を行った。

（4）新規会員の開拓

KVBCを常に「新しいクラブ」として活力を維持し、これに相応しい会員の開拓を図るため、クラブのPRに努め、新規会員3社の入会があった。

・異業種京都まつりへの出展：異業種京都会のメンバーへの広報および入会勧誘のため出展した

（5）その他の事業

●KVBC機関誌「SHAKE HANDS Letter」の発行

会員の内外に、会員企業の紹介やKVBCの活動を紹介する情報誌として、機関誌を毎月2,000部発行した。

●マレーシアメイバンクベンチャーとの交流

●第2号議案

2004年度役員名簿（役職ごと、役員者名50音順）

代表幹事	藤岡 治清	(株) ユニシス
副代表幹事	河合 康博	アド・プロヴィジョン (株)
〃	仲 良二	(株) ケルクセキュリティシステム
〃	井上太市郎	(株) スリーエース
〃	田中 峰子	(株) 富田屋
〃	西谷 謙二	(株) 和光舎
幹事	有川 晴彦	アーキ・テクノリサーチ (株)
〃	中村 史門	(株) アルファ・プリント社
〃	木下 豊	(株) エクザム
〃	清水 隆二	(株) エスケイショップ
〃	中川 茂之	システムプロデュース (株)
〃	愛知後秀作	星和情報システム (株)
〃	猪飼 昭嗣	(株) ゼロワン
〃	川端 克裕	大洋エレックス (株)
〃	大東 利幸	大東寝具工業 (株)
〃	日比 昌孝	日貴電子 (株)
〃	土井 達也	日本コンピュータファシリティ (株)
〃	小川 睦美	(株) ハイパーテック
会計幹事	富田 尚男	富田尚男税理士事務所
〃	田中 正道	シーク電子工業 (株)
顧問	中野 美明	京都市産業局観光局長
〃	西川 謙一	(財) 京都高度技術研究所理事長
〃	堀場 雅夫	(財) 京都高度技術研究所最高顧問
〃	立石 義雄	(財) 京都産業21理事長
シニア会員	カウンセラー	辻 理 ((株)サムコインターナショナル研究所代表取締役)
〃	カウンセラー	西河 勝男 ((株)暁電機製作所代表取締役)

●第3号議案

2004（平成16）年度事業計画<案>

1 基本方針

国内・海外を問わず、問題の山積した時代である。混迷するイラク戦争、少子高齢化の進行、地球環境問題の深刻化など。しかし、ようやく景気回復の兆しが見えはじめ日本経済が本格的に浮上するかどうかの分岐点に立っている。

今こそ、これまでにない新たな発想が生まれ、評価され、報われる機会が広がっているといえる。機動性を発揮できるベンチャー企業にとっては、成長への大きなチャンスであり、KVBCの真価が問われているのである。

KVBCは世界に向けて創造と挑戦を続ける未来派集団として、また、独自技術や製品の開発研究、新しいシステムやサービスの構築など、会員企業のベンチャー向上のための活動に取組みを展開していくものとする。

2 事業執行体制

これまでに引き続き、基本的にはKVBCの諸事業を次項で説明する4つの事業に大別し、4名の副代表幹事と幹事がそれぞれの事業を担当することによって、責任体制の明確化、効率的な事業の推進を図ろうとするものである。また、企画広報委員の中に20周年事業の担当副代表幹事を置くものとする。

3 重点事業

（1）企画広報事業

ア.総会：通常総会、臨時総会の運営、議事進行を行うとともに、併設事業の講演会や懇親会等を企画、実施する。

イ.The thirties KVBCメンバーズクラブの開催

KVBC会員企業の30代の幹部職員の研修道場を年間5回程度開催する。

ウ.産学連携企画セミナーの開催

各大学のリエゾンオフィスを提携し、産学連携を探る。各リエゾンの担当者に産学連携の現状と期待を語っていただいた後、参加者との質疑応答を行う。

エ.KVBC20周年記念事業の企画

KVBC20周年事業の準備委員会を設け事業計画を行う。

オ.機関誌（S.H.L）の発行

機関誌（SHAKE HANDS Letter）の内容の企画を充実していくとともに、将来のペーパーレス化について検討していく。

カ.KVBCのWebの毎月更新と英語版の新規作成

キ.新規会員の開拓

（2）プロジェクト事業

興味あるテーマをまとまりやすい少人数で研究することにより、そのテーマを十分に掘り下げるとともに、会員間の交流を深めることを目的として実施する。

各プロジェクト事業は、少なくとも1名のKVBC役員が参加するか、そうでない場合は書面において1回/月の活動報告を行うものとし、4名以上のKVBC会員で組織するものとする。

●ものづくり研究会

●人材ネットワークプロジェクト

●グローバル問題研究会

（3）研修事業

ア.宿泊研修：諸問題をテーマとして講師を招いたセミナーや見学会、視察等を企画する。

イ.経営および技術セミナーの企画、実施

（4）会員交流事業

ア.例会：会員ベンチャーに関連付けたテーマに基づき、セミナー研修、会員交流、研鑽のサロンのような場づくりを行うとともに、自己PRや会員企業の宮利活動の場としても活用していく。

イ.会員対策：現在会員企業は70社弱であるが、総会や例会、懇親会等KVBCの活動の場にまったく出てこられない方が多くおられるという現状を直視し、原因と対策を検討する。

[第2部へ>>>](#) [第3部へ>>>](#)

□

□

□

KVBC 第20回記念講演が開催されました

総会に引き続いて、毎年恒例となった記念講演会が開催されました。今回の講師は、IT教育のパイオニアとして知られる京都コンピュータ学院の長谷川靖子理事長、長谷川巨副理事長。学院創立にまつわるさまざまな人間模様やエピソードをご講演いただきました。

IT教育のパイオニアとして

講師／長谷川 靖子理事長

(学校法人京都情報学園・学校法人京都コンピュータ学園)



長谷川 靖子理事長

◆研究会を設立して仲間とともに切磋琢磨

1963年、まだ日本に国産機が1台もなかった時代、IBMやユニバックなどから、大学研究者のために年間100時間だけコンピュータを貸してやろうという申し出がありました。当時、京都大学大学院で宇宙物理学の研究をしていた私は、これ幸いとその申し出に飛びつきましたが、コンピュータを使うための参考書などはなく、たった1冊のマニュアルを開きながら自習するというものでした。これではいけない、みんなで切磋琢磨して研究しようと立ち上げたのが『フォートラン研究会』。京都コンピュータ学院の前身です。

この100時間というのは、日本全国の学者が利用するトータルの時間で、1人に割り当てられた時間はごくわずか。せっかくプログラムを作って持っていったのに、1カ月待って、たった1箇所のパンチミスで計算結果をもらえないという残念なこともありました。伸びる才能があるのに、それを育てることができない…。それがどれほど残酷な状況か、そのとき私自身が痛いほど実感したのです。

◆開拓者と同じ気持ちでコンピュータ普及に尽力

1965年、東京大学で国産機の第1号が登場し、仲間とともにそのテストランに参加することになりました。そのとき、その国産機の開発者であった東大の森口教授から「コンピュータの普及のために、西部開拓者と同じ気持ちで頑張ってもらいたい」と励まされ、私自身のフロンティア精神に火がついたのです。しかし、当時は全国どの大学を見ても、コンピュータ関連の学部学科は皆無。そんな状況のなかで、コンピュータを利用する人に、プログラミングだけでなく数値解析、データ解析を含めた技術指導を行おうと開講したのが『京都ソフトウェア研究会』でした。京都大学に研究会のポスターを持っていったところ、「女性の肌着の研究会ですか?」と聞かれたこともありました。大学だけでなく企業の間でも大変な評判となり、多くの有能な人々が研究会に参加してくれるようになりました。

やがて、企業からシステム開発の依頼が舞い込むようになりましたが、まだ日本には技術者が少なかったので、ほとんど一人でプログラムを組みました。通常、チームを組んで2~3カ月もかかる仕事をわずか2週間でやってしまうので、取引先の社員から「自分たちの立場がない」とクレームをもらったこともあります。わずか1,000ワード程度のメモリの中に必要なプログラムとデータを入力するという、現在とは比較にならないほど大変な作業だったにもかかわらず、ひどい中傷にあい、「主婦のアルバイト料しか支払えない」と言われたこともありました。



◆障害を乗り越える“当たって砕けろ”の精神

研究者にプログラミングを指導するという初期の役割を果たし、第2段階として私は、一般の人たちの中からコンピュータ技術のプロを育てたいと考えようになりました。オープン当初の『京都コンピュータ学院』は、私たちが屋根を張り、壁を塗るというまったくの手づくりの教室でしたが、コンピュータだけは当時ナンバー1といわれる高性能マシンを用意しました。時代の要請に対応していたこともあって、学生諸氏がどんとどんと集まり、私自身も技術者の育成に生きがいを感じるようになりました。

創立以来41年間、さまざまな困難や障害がありましたが、そのたびに私は「当たって砕けろ」の精神で乗り越えてきました。そのプロジェクトがどのようなものであろうとも、「時代にとって大事なものであること」「的確な将来ビジョンを持っていること」「創造的なものであること」という3つの要件が満たされていれば、どのようなバッシングや批判があろうとも何も恐れることはないと思います。本日はありがとうございました。

IT専門家育成に期待が高まる

「京都情報大学院大学」

講師／長谷川 巨氏

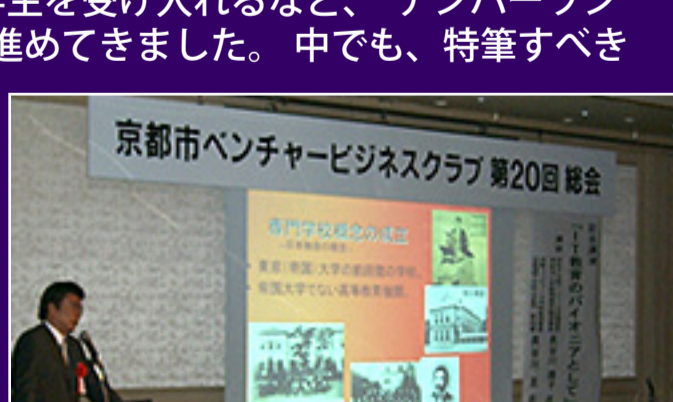
(京都コンピュータ学院副理事長 京都情報大学院大学教授・統括理事)



長谷川 巨氏

「ナンバーワンを目指すよりも、オンリーワンを目指せ」という人がいますが、私は“オンリーワン”というのは“ナンバーワン”でもあると思います。京都コンピュータ学院は、日本で最初の私立のコンピュータ教育機関であり、1983年には世界で初めて3000台のパソコンを学生一人ひとりに無料貸与、また専修学校として唯一JICAの海外留学生を受け入れるなど、“ナンバーワンアンド オンリーワン”の取り組みを進めてきました。中でも、特筆すべきは、本年4月のIT専門職大学院『京都情報大学院大学』の開学でしょう。

戦後日本の大学院は、アメリカのように専門職大学院（プロフェッショナルスクール）としての機能を果たすことなく、十分な専門職教育が行われてきませんでした。京都情報大学院大学では、IT関連の高度なニーズに応えるために、実務教育を重視した豊富なカリキュラムを用意しています。企業内教育と連携して学位を取得したり、オーダーメイドのカリキュラムも設計できるので、ぜひ産学共同の一つの事例として積極的にご活用いただきたいと思います。

[第1部へ>>](#)[第3部へ>>](#)

□

□

□

懇親会

第3部の懇親会では、今年度より就任された京都市産業観光局 中野美明局長が登壇し、「平成8年からの2年間、産業振興課長として京都市ベンチャービジネスクラブ会員の皆様にお世話になりました。また現在もその頃の会員様はじめ、皆様とご一緒にさまざまな取り組みができることを心より嬉しく思っています」と挨拶されました。また、黄綬褒章を受章された椿森信一氏へ、会員一同を代表して小川睦美氏より花束が贈呈されました。

その後のアトラクションでは、「難問・奇問 京都クイズ」と題し、正解者には会員企業様より提供された豪華な商品が配られ、終始にぎやかな交流が図られました。



京都市産業観光局 中野美明局長



黄綬褒章を受章された椿森氏



「The thirties KVBC メンバーズクラブ」のお知らせ

第20回KVBC総会にて、会員の皆様にお知らせをした「The thirties KVBC メンバーズクラブ」に関して、事業の日時・場所が下記のように決まりました。

日時 第1回 7月28日 (水) 17:30~20:30
 第2回 9月15日 (水) 17:30~20:30
 第3回 10月21日 (木) 17:30~20:30
 第4回 11月18日 (木) 17:30~20:30

場 所： 京都市保養所「きよみず」(東山区清水4丁目200番地)

事業概要：

【事業名】 The thirties KVBCメンバーズクラブ
 【コンセプト】 KVBC会員企業の30代の幹部社員の研修道場
 【内容】 次代を担う経営幹部としての研修と情報交換会
 【参加予定人数】 10名程度
 【運営】 参加者の中から世話人2名を選出する。世話人は互いに相談して運営する。
 【協力人・コーディネータ】 杉原潔氏 ((株)アポロ総合経営)
 【時間】 17時30分~20時30分 (講座90分、交換会90分)
 【参加者会費】 3,000~5,000円 (先生を交えての交歓会飲食費)

お問い合わせは事務局までお願いします。

電話：075-222-3324

FAX：075-222-3331

E-mail：mancg904@city.kyoto.jp

[第1部へ>>](#) [第2部へ>>](#)

□
 □
 □